

国内機関リポジトリ著作権処理方法調査
アンケート調査結果報告書

2010 年 12 月 1 日

(1) アンケート回答依頼機関数と有効回答機関数と割合

アンケート回答依頼機関数	168 機関	100.0%
回答のあった機関	133 機関	79.2%
未回答機関	35 機関	20.8%

(2) 著作権処理行っている機関の数と割合（有効回答 133 機関中）

著作権処理を行っている	105 機関	78.9%
著作権処理を行っていない	28 機関	21.1%

(3) 使用している機関リポジトリソフトウェア及びバージョンの種類

【使用ソフトウェア】

DSpace	85
NALIS-R	17
Earmas	9
XooNIps	5
XooNIps Library	1
E-repository	6
Infolib	3
Infolib-DBR	2
Eprints	3
iLisSurf e-Lib	2
iLiswave-J	1
独自開発	1

【バージョン】

DSpace		85
	1.3.2	15
	1.4.0	3
	1.4.1	9
	1.4.2	34
	1.5.0	2
	1.5.2	8
	1.6.0	2
	1.6.2	1
	不明	11
XoonIps		5
	3.42	2
	3.44	1
	不明	2
XoonIps Library	1.40	1
Infolib		3
	5.0.0	1
	不明	2
Infolib-DBR		2
	1.5	1
	不明	1

(4) 著作権処理の管理方法

<各項目の使用割合> (複数回答可)

Microsoft Excel	75	71.4%
Microsoft Access	10	9.5%
機関リポジトリソフトウェア (ソフトウェア自体に組み込まれている)	4	3.8%
機関リポジトリソフトウェアを独自で機能拡張したシステム	1	1.0%
機関リポジトリソフトウェアとは別の独自システム	2	1.9%
その他	46	43.8%

※ (2) で著作権処理をしていると回答した 105 機関に対する割合

<その他の管理方法>

【複数機関が回答している管理方法】

- ・ 紙ベースで管理（許諾書類等をファイリング）
- ・ メモやノートによる手書きレベルの管理
- ・ 送受信メールによる進行状況の確認
- ・ 登録済みのみ Excel で管理
- ・ 許諾の取れたもののみ登録及び公開しているため、管理は行っていない。

【機関別管理方法】

- ・ バグトラッキングシステム「Trac」
- ・ ブログ
- ・ Google Docs

<その他>

- ・ A 機関の管理方法
学術雑誌論文：作業しながらルール化検討中。
紀要論文：紙（様式）管理
紀要論文の場合、著者は機関内の規程で定められている様式（著作権の扱いについて記載あり）を用いて、著者が所属する部署内で決裁を行い、事務局は著作権処理が終了している状態で様式および論文を受領している。
- ・ B 機関、C 機関の 2 校は著作権処理は行っているが、著作権処理の管理方法についての回答はない。
- ・ D 機関は Excel で処理を行うか、Access で処理を行うか試行錯誤中。

(5) 共著者への公開許諾実施主体

<各項目の使用割合>（複数回答可）

著者（学内研究者）	96	91.4%
機関リポジトリ事務局	31	29.5%
学内の学術雑誌・紀要発行部局	28	26.7%
その他	8	7.6%

※（2）で著作権処理をしていると回答した 105 機関に対する割合

<その他>

- 図書館
- 学術情報編集委員事務局
- 基本、第一著者が許諾を行うが、紀要の執筆要綱・投稿規定等、または運用指針により公開が決まっている場合などは共著者への公開許諾をとらない場合もある。
- 基本的には各著者によるが、部局、紀要等発行母体等の関係や歴史的かかわりによって一概に言えない。但し、リポジトリ管理部署は一切かかわらない。
- 他機関に著者が存在しない。

(6) 著者に対する著作権処理の管理項目

<各項目の使用割合> (複数回答可)

論文のメタデータ	71	67.6%
著者名	82	78.1%
共著者の有無	53	50.5%
著者の連絡先	59	56.2%
許諾依頼手段 (メールなど)	48	45.7%
許諾の結果 (許諾の可／不可など)	85	81.0%
日付で管理している場合		
許諾を依頼した日付 (許諾依頼書送付日など)	42	40.0%
許諾の回答があった日付 (許諾依頼書受領日など)	51	48.6%
本文 (著者の最終稿などの電子ファイルや論文の抜刷など) の送付依頼をした日付	17	16.2%
本文 (著者の最終稿などの電子ファイルや論文の抜刷など) を受領した日付	20	19.0%
論文の電子化 (スキャニング) に着手した日付 (業者等に電子化を依頼した日付など)	3	2.9%
論文の電子化 (スキャニング) が完了した日付 (業者等から電子化された論文を受領した日付など)	6	5.7%
機関リポジトリで公開した日付 (公開日など)	40	38.1%
許諾ステータスで管理		
許諾未依頼 (に相当する項目)	34	32.4%
許諾依頼中 (に相当する項目)	43	41.0%
本文提供待ち (著者最終稿などの電子ファイルや論文の抜刷など)	27	25.7%
業者等の電子化待ち	10	9.5%
機関リポジトリでの公開状況 (公開済など)	40	38.1%
その他の項目	7	6.7%

※ (2) で著作権処理をしていると回答した 105 機関に対する割合

＜その他の管理項目＞

機関名	管理項目	
E 機関	日付	研究者自身による入力最終更新日
	許諾ステータス	研究者自身が機関リポジトリシステムで選択した 3 項目「未定」「公開希望」「非公開希望」
F 機関	書誌事項	
	ファイル形式（doc、pdf など）	
G 機関	研究者 DB との連携可否	
	メールアドレスによるアクセス統計送信の希望有無	
H 機関	ページ数	
	不許可の人のリスト	
	学部別許諾状況	
I 機関	包括許諾が得られている研究者のリスト	
J 機関	抜刷等の返却日	返却が必要な紙資料で論文の提供を受けた場合、返却でトラブルにならないようにするため

＜注記＞

【複数機関が回答している管理方法】

- ・ 著作権の処理状況や処理結果、その他連絡事項はメタデータの備考欄に追記して管理を行っている。
- ・ 許諾依頼やその回答などを紙媒体でファイリング、または著者とのメールのやり取りを保存して管理している。
- ・ リポジトリ掲載時や論文提出時に許諾を取得してある。
- ・ 著者に対する著作権処理の管理は行っていない。
 - 著者自身が希望した文献を登録、または著者からコンテンツの登録依頼があった時点で許諾は得られるため
- ・ 著者に関する著作権処理の管理は今後行う方向で検討中

【機関別管理方法】

- ・ 研究者からの登録要請については簡易登録システム（研究者・関連部署からの仮登録）における登録時に著作権関係の許諾項目を入力する仕組みになっている。
一般公開できないケースについては学内のみ、特定の利用者のみなどの制限付き公開を行い、デジタル資料の管理を行っている。

- 日付は常にステータス更新時に上書きをしている。
- 許諾日というよりは、許諾期間を重視している。
- 登録対象の論文が館内刊行物と規程で定められているので、それらは事務で許諾を取得するが、論文内で使用されている写真や図譜については、許諾を得る必要がある場合に限り、著者の責任で許諾を取得する。
- 著作権を自機関が保有している出版物に関しては、著者に対する許諾依頼は不要。
許諾処理を行うのは外部出版論文のみ。

(7) 出版社に対する著作権処理管理項目

<各項目の使用割合> (複数回答可)

論文のメタデータ	49	46.7%
雑誌名	65	61.9%
出版者の連絡先	45	42.9%
SCPJ での著作権ポリシー (公開条件)	46	43.8%
SHERPA/RoMEO での著作権ポリシー (公開条件)	47	44.8%
出版者から回答のあった著作権ポリシー (公開条件)	59	56.2%
許諾依頼手段 (メールなど)	39	37.1%
許諾の結果 (許諾の可/不可など)	72	68.6%
エンバーゴ期間	50	47.6%
日付で管理している場合		
許諾を依頼した日付 (許諾依頼書送付日など)	42	40.0%
許諾の回答があった日付 (許諾依頼書受領日など)	45	42.9%
許諾ステータスで管理している場合		
許諾未依頼 (に相当する項目)	21	20.0%
出版者の著作権ポリシー確認中 (に相当する項目)	24	22.9%
許諾依頼中 (に相当する項目)	39	37.1%
その他の項目	6	5.7%

※ (2) で著作権処理をしていると回答した 105 機関に対する割合

<その他の管理項目>

機関名	管理項目
K 機関	CiNii からの原稿入手の可否
	次回からの問い合わせの必要・不要
	雑誌別ポリシーの有無
	論文単位でのリンク設定の必要・不要 (オンラインジャーナルへのリンクが許諾条件の場合があるため)
L 機関	付帯条件 (「要リンク表示」など)
M 機関	著作権ポリシーを調査したソース (出版社の著作権ポリシー記載 URL など)
N 機関	雑誌別にも情報を管理
	雑誌タイトル別名
	リポジトリへの登録可否
	著者最終稿の登録可否
O 機関	出版社版の登録可否
	掲載可否の根拠とした URL
	例) http://www.elsevier.com/wps/find/authorsview.authors/copyright#whatrights

<注記>

【複数機関が回答している管理方法】

- ・ 出版者に対する著作権処理は未着手、または管理を行っていない。
- ・ 出版者への著作権処理を検討中。

【機関別管理方法】

- ・ 発行母体が本学内の学会であるため、許諾されていることが前提になっている。
- ・ 各出版社の著作権ポリシーや許諾の結果、連絡先等は別途、出版社ごとに管理している。
- ・ 出版者に対する著作権の処理状況は、個々のメタデータの備考欄に記載する形で運用している (エンバーゴ期間を含む)。

処理結果や連絡先は、メールまたは紙媒体のファイルで確認している。

- ・ 出版者ポリシーについて別ファイルで管理しているわけではなく、著者別の調査表に必要な応じて記入している。

- ・ SCPJ、SHERPA/RoMEO の条件は管理項目こそ設けていないが、参考にした際はその情報も著作権許諾規定に入力することはある。

許諾ステータスは「問い合わせ状況」という一項目で管理している。

- ・ 学術雑誌論文については、現在は SCPJ での著作権ポリシー、SHERPA/ReMEO の著作権ポリシーで公開可となっている論文についてのみ公開している。

- ・ 論文ごとに個別対応なことが多く、その都度調査、許諾依頼を繰り返しているのが現状。学会等とのやりとりも 1 回では済まず、長期間回答待ちになる場合がある。

学会等のリポジトリへの理解、意識改革のさらなる向上を切望する。

- ・ 学内発行物については編集委員会にて投稿規程などにインターネットにおける公開を記述している。

一般公開ができないケースについては学内のみ、特定の利用者のみなどの制限付き公開を行い、デジタル資料の管理を行っている。

(8) 著作権処理で困っている点、苦労している点

- ◇ 著者、共著者、出版者の特定が困難
 - ・ 共著者が多くて確認が取れない。
 - ・ 許諾確認や依頼文書・メールを送っても返答がない（学会、個人、商業出版社共通）。督促しても同じ。
⇒ 返答がない理由が不明なため、続けて連絡してよいか迷う。
 - ・ 退職者、学外研究者などの所在調査に時間がかかる。
 - ・ 古い紀要になると、許諾者が高齢、または生死不明で確認が難しい。
 - ・ 学会準備期、年度末等の繁忙期は返事に時間がかかる、または来ない。
 - ・ 地方学会などでは許諾が得られない場合も多い。
 - ・ 著者から図書館で許諾確認を取るように言われる。
- ◇ 外国の出版者に対する対応が困難
 - ・ 海外の出版者で雑誌ごとに著作権ポリシーやリポジトリで要求される著作権表示などの記載事項が異なるため、判断に迷う。
 - ・ 海外学術雑誌論文の著者表記が省略形の場合、学内教員との同定が難しい。
 - ・ 直接、海外の学会や出版者と交渉しようとした場合、語学のできるスタッフが必要になる。
 - ・ 海外の学術雑誌論文についての調査が、**SHERPA/RoMEO** くらいしかできない。
- ◇ 著作権処理に関する記録が **Access**、**Excel**、メール、紙媒体と分散していることに加えて、**Excel** 内でも複数のファイルで管理しているため、全容を把握することが難しい。
また、メタデータの備考欄による状態管理は、一覧性・一貫性に欠ける。
- ◇ 取扱件数が多いため、許諾の回答状況やエンバーゴの管理が円滑にできていない。また、学術雑誌論文で公開までにエンバーゴが設定されていると、確認と管理が煩雑である。
- ◇ 許諾処理のために人員や時間を確保することができず、調査が進まない。図書館で公開手続を行う余力はなく、委託しようにも予算が取れない。
- ◇ **SCPJ** や **SHERPA/RoMEO** といったデータベースは有効であるが、**CiNii (NII-ELS)** や **J-STAGE** との情報が食い違っていること、許諾の「調査中」

が多い、「検討中」がずっと検討中であることなど、現時点ではまだ網羅性が低いことや信頼性に不安があるため、個別の出版社サイトでの確認作業や問い合わせが発生し、作業量の増大につながっている。

また、SCPJで事前照会や許諾書の提出が必要な場合が多く、処理が煩雑である。

- ◇ 著者にリポジトリ登録・公開によるメリットが伝わりにくく、著作権への意識も低い。そのため、説明を繰り返す必要があるが、それでも教員からの協力を得るのは難しい。

「学術的な論文に引用するのだから許諾はいらない」「出版社の転載料が高いので無断で載せた」といった発言を耳にする。

- ◇ 過去の紙媒体での文献（具体的には雑誌論文の抜き刷り）の提供が非常に多い。学会や出版責任者が変更されていることも多く、調査に手間がかかることが多い。

- ◇ 著者版の本文収集の際の障害

- ・ 出版者からプレプリント版、ポストプリント版の公開許諾しか得られなかった場合、入手が困難。
- ・ 著者による著者版と出版社版の混同。
- ・ 著者から掲載可能な原稿の版ではない原稿を提出される。また、著者から提出された原稿が、著者最終稿か判断しかねる場合がある。
- ・ 過去の学術雑誌論文掲載記事の著者版を保存していない研究者が多い。

- ◇ 紀要論文において、他大学の機関リポジトリに掲載されている論文を本学の機関リポジトリに再度重複して掲載するメリットが分からない。

(9) 要望・提案・その他の意見

- ・ 国内の商業出版社のポリシーについて一元的に調べるツールがあるといい。
- ・ 過去の実績などから登録実績のある出版者の刊行物を抽出するなどの支援機能があるといい。
- ・ SCPJにおさまらない許諾の部分についても情報共有の仕組みがあるといい。
- ・ 著作権者のオープンアクセスに対するステータスを記録したデータベースがあると許諾が多少は楽になるのではないか。

- 著作権処理の管理方法は、試験運用中や試行錯誤中で定まっていない。
- 本学では、出版社別、雑誌別の許諾情報管理システムを運用しており、情報を整理する上では助かっているが、項目化が難しいものもあり、多くの情報テキスト入力している。また、過去に処理した際どのような情報を元にしたかということは、把握しておきたい。
- 写真や図譜について許諾を得られていない、文言に不適切なものがある、門地や個人名の公開は望ましくない等で、著者から部分削除の希望がときどきある。限られた範囲にしか届かないものでも、デジタルデータとして、インターネットでフリーで公開となると、その影響は大きく、意図しない結果を招くことがありえると考え、結果として黒塗り、写真や図譜抜き公開となる。担当者としては釈然としない気持ち。
- 著者自身によるアーカイビング広まり、少なくとも、図書館等のリポジトリを運営する部署から著者へ許諾を得ることがなくなることを願います。
- 学術雑誌論文、紀要論文とも未公開。知識等の不足で事務局が著作権のことを研究者、出版社に説明できない。今後、学術雑誌論文の著作権処理で、外国雑誌の著作権ポリシーが調査できるか不安。また、研究者個人から個別に論文の登録・公開をできる仕組みを構築したい。

以上